

2013年2月1日から2014年4月30日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



認定NPO法人発足に伴う変更事項
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------|
| ● 太原博史様 | ● 山崎瑞代様 | ● (公財)煎茶道方円流 |
| ● 莊氣横山様 | ● 東 久雄様 | 南九州支部様 |
| ● 国分酒造協業組合様 | ● 岡村 健様 | ● 伊佐整形外科 |
| ● 岩松洋一様 | ● 赤川慎子様 | 院長 伊佐 眞様 |
| ● 青沼佳奈恵様 | ● 河野保夫様 | ● 奥田由美子様 |
| ● 永井良英様 | ● 佐竹芳武様 | ● 佐々木正修様 |
| ● 上野健太郎様 | ● 医療法人飯田耳鼻咽喉 | ● 稲垣文江様 |
| ● 由村和之様 | 科 飯田富美子様 | ● 石川篤子様 |
| ● 加治恵里香様 | ● 福川みずほ様 | ● 溝口幸泰様 |
| ● 上野凌太様 | ● 福川勉功様 | ● 八田美由紀様 |
| ● 尾之上葉様 | ● 井上みゆき様 | ● 今村 均様 |
| ● フロントアナイト様 | ● 大西正孝様 | ● 柴山良彦様 |
| ● 角野勝敏様 | ● 伊地知 修様 | ● 浄土真宗本願寺派西本願寺 |
| ● 川越洋介様 | ● ジェフリー・S・アイリッ | 鹿児島教区仏教婦人会連盟様 |
| ● 山崎太首様 | ユ様 | ● 鹿児島南ロータリークラブ様 |
| ● 福吉浩子様 | ● 大竹憲司様 | ● 鹿児島大学小児科医局様 |
| ● 三木淑子様 | ● 笹森陽子様 | ● 岩松隆男様 |
| ● 竹下あゆみ様 | ● 掛下光晴様 | ● 岡本康裕様 |
| ● 神本三千男様 | ● 河野嘉文様 | |
| ● 佐藤宏樹様 | | |
| ● 山田和彦様 | | |

■ 一般寄付

本法人の活動意義をご理解頂き、ご寄附を賜りますようお願い致します。現金収受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■ 個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■ 法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

■ 募金箱

募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

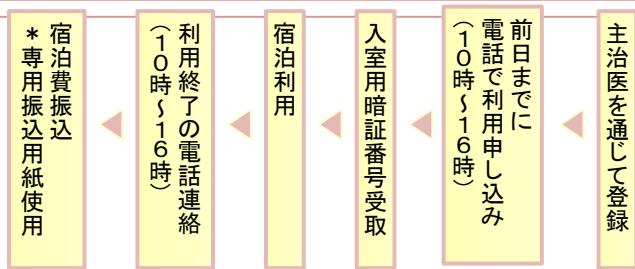
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
- 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの友達によって維持管理して頂いております。ご協力。

ご利用の流れ



* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内

電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束 皆様からお預かりした個人情報は

・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。

・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

ホームページは随時更新中です

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2014.SPRING VOL.13

■ ファミリーハウス

■ 健康相談会・巡回診療

■ 子ども救急箱

■ ふれあいコンサート

■ その他



Save the Children
私達は離島・へき地の
難病児を支援します

すべての子どもに適切な小児医療と
快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
子ども医療ネットワーク



当法人に寄附をされた方へ

鹿児島市の税金制度が
変更しました。
詳しくはホームページ
をご覧ください。

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター 小児科内 「こねっと通信」係

E-mail

kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

理事長通信

第9期末の決算を終え、無事にNPO法人として活動10年目になりました。皆様方のおかげで収益事業をせずに寄付金だけで運営する法人が継続できております。本法人が直接できることは少ないのですが、全国的な活動をする団体から鹿児島県の窓口としての役割を持たせていただいている面でも存在価値を感じることができました。先般、日本全国の自治体数が激減する予測調査の結果が公表されました。いわゆる生産年齢の女性が地方にいない、人口の減少と自治体の機能は保てなくなり、人口の減少と自治体の減少は避けられない事態のようです。へき地・離島における医師をはじめとする医療者不足は、今後も継続してさらに深刻化するようです。離島に人が住まなくなれば国土としても認められなくなる可能性もあり、国際的な領土紛争の種にもなります。大変な問題のように思うのですが、打開策は見当たらない。当法人は「まずは自分ができるところをやる」という理念に基づき、目の前の難病の子どもの支援を継続していきたいと思

(理事長 河野嘉文)

「こども健康相談会」宇検村報告書から

平成25年12月15日(日)宇検村の元気の館に於いて、保健師の川畑さんを中心とした宇検村役場の方たちの協力のもと、「こども健康相談会」が開催されました。当日は9家族30名ほどの方にご参加いただきました。まず初めにNPO法人「こども医療ネットワーク」の活動内容についての説明があり、その後鹿児島県立大島病院の山崎雄一 小児科医師、瀬座秀樹理学療法士による講演、小児科医、理学療法士、言語聴覚士、保健師による個別の健康相談会と続きました。山崎医師による講演では、「こどもの様々な症状別(発熱、腹痛、頭痛、けいれん、皮疹など)に、受診を急いだが方がいいのかまだ待てるのかなどについてのポイントをわかりやすく説明していただき、瀬座理学療法士による講演では、発達と遊びというタイトルで、普段の遊びの中でこどもたちはどのような身体能力を獲得していくのか、また月齢に応じてどのよ

「こども健康相談会」与論報告書から

平成25年6月22日に与論町保健センターで健康相談会と講演会を開催しました。健康相談会には2組3名(1組は兄弟)の相談者と講演会には約16名程の方々に来ていただきました。相談会では、人数が少なかつた分、時間をかけて相談にのることができたかと思えます。相談を頂いたお母さんからもじっくりお話ができて良かったと好評でした。講演会では倉内が小児における症状、疾患の概説を行い、出水総合医療センター小児科の永田博美医師から、小児の心肺蘇生とAEDの使用方法に関する講演と、人形を用いた実習を行いました。



うな遊びが発達を促していくのかなど、たくさん動画を交えて説明していただきました。最後の個別の健康相談会ではこどもの身体、発達、言葉に関する質問が寄せられ、普段はじっくりと聞くことができないことも時間をかけてゆっくりとお話できていた様子でした。相談会の後、会場内を元気に走り回るこども達を見て、「こどもは皆の宝であり今後もこれらの活動を通してこどもの健康をサポートしていけたらと感じました。宇検村でのこども健康相談会を開催するにあたりご協力をいただきました宇検村の方々、ご参加いただきました方々、ありがとうございました。

今回の実習ではベビーアムも用い、実際の乳幼児の体格に触れて頂き、蘇生実習を行いました。毎回の感想になりますが、このような実習は定期的に行っていくことが大事ですので今後の講演会でも取り入れていく予定です。今回1年3か月ぶりの開催でした。地元結婚式2件と重なり人数不足が懸念されましたが、与論保健センター林さんをはじめ、地元サポーターもあり、例年と同じくらいの方々に参加して頂きました。与論の方々はこの会への期待に對してお応えできるように、次回はいよいよ内容の濃いものを目指し開催できればと考えております。

こども救急箱

《医療情報の捉え方》

理事長 河野 嘉文
(鹿児島大学小児科)

2014年1月27日南日本新聞掲載



毎年冬になると、ノロウイルスやインフルエンザウイルスによる感染症関連のニュースが多くなり、今冬も盛んに報道されています。報道されるのは、集団発生などニュースとしての価値が高まるときです。報道では、研究者や医師が対策をコメントすることも多いと思いますが、中には「家族の誰かが発症したら、接触しないように」との注意喚起や消毒の細かい手法が紹介されることもあります。これらは病院などの特別な場所では有効ですが、一般家庭、とりわけ子育て中の家庭では、非現実的な内容だと感じませんか? スキンシップをとりながら、子育てをしている家族の間で、感染を防ぐことは無理だと思えます。報道は限られた時間や字数で伝えられた関係上、最も重い症状を係上し、対策も病院など特別に弱い人がいる場合が想定されています。結果として、普段から健康に生活している人にも恐ろしい病気と受け取られます。注意喚起としては有効なですが、過度に不安をおられることにより、軽微な症状にもかかわらず、込んでいる医療機関を受診し、そこで新たな感染症をもらうことさえあります。ノロウイルスとインフルエンザウイルスは、予防接種や治療薬の有無などで違いはありますが、ともに薬を飲まなければ治らない病気ではありません。予防接種がある場合は受けるべきですが、健康な人の大部分は、自然に治る病気です。ニュースとして報道される医療情報は、すべての人に適切な情報だとは限りません。内容の解釈には慎重になりたいためです。過敏になりすぎないために、普段から気楽に相談でき、いろいろな教えてもらえる「かかりつけ医」を持つてほしいと思います。



※こども救急箱の記事は2006年4月から隔週に掲載されています

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。上記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係

